

第 2 回北区観光振興プラン策定検討会 議事概要

日 時	平成 26 年 9 月 25 日（木）18:30～20:30
場 所	北とぴあ 7 階 第 1 研修室
出席者	検討会委員：11 名（4 名欠席）、（事務局）7 名、傍聴：3 名



委員長あいさつ



会議の様子



会議の様子

議事次第

1. 開会
2. 委員長挨拶
3. 観光振興プランの策定スケジュールと体制の確認（資料 1）
4. 前回検討会のふりかえり（資料 2）
5. 北区観光振興プランワークショップの報告（資料 3）
6. 議題
 - (1) 北区における観光振興の意義について（資料 4）
 - (2) 北区観光振興プランの目標像、基本方針、骨子について（資料 5）
7. その他

配布資料

- 議事次第、配席図、観光振興プラン策定検討会委員名簿
- 資 料 1：観光振興プランの策定スケジュールと体制の確認
- 資 料 2：第 1 回北区観光振興プラン策定検討会議事要旨（案）
- 資 料 3：北区観光振興プランワークショップニューズレター（vol. 1～vol. 3）
- 資 料 4：北区における観光振興の意義
- 資 料 5：北区観光振興プラン骨子（案）

主な議論内容

- ・ 北区における観光振興の意義について、観光振興によって北区民の意識、愛着、誇りを醸成するのではなく、観光振興のベースに区民の意識、愛着、誇りが存在する旨をイメージ図に表現することとなった。
- ・ 観光振興プランの骨子（案）の大枠の構成について、概ね了承を得た。
- ・ 第 2 章の北区における観光の特徴と進め方について、進め方の最終ステップに定住人口の拡大を加えることとなった。
- ・ 第 4 章の北区観光の 5 つの基本戦略と施策・事業の体系について、今回検討会での意見を踏まえ、次回検討会で具体化していくこととなった。

1. 開会

2. 委員長挨拶

- ・ お足元の悪いなか、お集まりいただき恐縮である。前回の検討会では、部会の設立にご賛同いただき、本日までに 3 回のワークショップを行った。結果は後ろの壁に貼ってあるが、基本的にはワークショップで出た意見を総括するかたちで、本日お示しするプランの大枠を作成させていただいた。ワークショップでは、個別の様々なアイデアが熱く語られたが、プラン全体としては、内容のバランスをとることが必要だと思う。みなさまには、北区が観光推進することの意義や今後の展開などを大枠の中でバランスのとれた計画となるよう、ご議論いただきたい。また、バランスのとれたものとなると総花的になりがちであるので、ここを重点的にやろうというプロジェクトについても議論をしていただければと思う。本日も議事進行にご協力をお願いしたい。

3. 観光振興プランの策定スケジュールと体制の確認

- ・ 事務局より、資料 1「観光振興プランの策定スケジュールと体制の確認」の説明。
- ・ 策定スケジュールと体制について、何かあるか。
 - (特になし)

4. 前回のふりかえり

- ・ 事務局より、資料 2「第 1 回北区観光振興プラン策定検討会議事要旨 (案)」の説明。
- ・ 事前にお送りいただいていると思うが、何か気づかれたことはあるか。
- ・ 私から一点、東京オリンピックについては、2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会が正式名称だと思うので、修正しておいた方が良いと思う。他にあるか。
 - (特になし)

5. 北区観光振興プランワークショップの報告

- ・ 事務局より、資料 3「北区観光振興プランワークショップニューズレター」について説明。
- ・ 第 2 回ワークショップに傍聴に来ていただいた委員もいらっしゃるので、印象や感想などをお話いただければと思う。
- ・ 非常に熱い活発な議論がされていた。第 2 回ワークショップは、キャッチコピーまで議論するというので、具体化なイメージや生の声を聞きたいと思い、傍聴したが、北区を知ってもらいたいという人、北区に住んでもらいたいという人、北区に来てもらいたいという人、それぞれの意見が重なり合い、具体的な考えがまとまり、様々なユニークな意見が出た。
- ・ 私は第 3 回ワークショップの様子を 1 時間程度拝見しに行った。3 回目ということで、みなさん遠慮なく、自分の意見を和気あいあいと話し合っていたというのが、一番大きな印象である。
- ・ 補足だが、1 回目と 2 回目のメンバーはシャッフルし、2 回目と 3 回目は開催間隔も短かったため、同じメンバーで行った。ワークショップでいただいた様々な意見やキーワードは、本日お示しするプランの骨子 (案) として構成させていただいた。ワークショップの報告につ

いてはよいか。

➤ (一同了承)

6. 議題

(1) 北区における観光振興の意義について

- ・ 事務局より、資料4「北区における観光振興の意義」について説明。
- ・ 観光振興の意義について、資料4にイメージ図があるが、観光振興によって、区民の愛着や意識、誇りが醸成されるのではなく、観光振興のベースとなる部分に、区民の愛着や誇りがあると思う。そのようなわれわれの想いをイメージ図のところに描けないだろうか。また、区民の理解がなければ、どんなプラットフォームを設けても意味がないと思うので、区民の人の理解に関する事項も必要だと思う。
- 確かに、ワークショップを見ていけば、愛着と誇りのかたまりであった。住民の意識があった上で観光振興を行っていく、ということだと思う。
- ・ 資料4のイメージ図について、このようなきれいな形になるのかなと思う。もう少し北区らしい形になればと思う。これからの5年、6年の間の時期によって、随時どこかが突出しているようなものを整理して出していかなければと思う。また、プランにまとめるものと、実際にかたちにしていくものの差をもう少し議論して整理していかなければならないと感じた。

(2) 北区観光振興プランの目標像、基本方針、骨子について

- ・ 事務局より、資料5「北区観光振興プラン骨子(案)」について説明。

① (基本方向性) 掛け算の観光について

- ・ 掛け算の観光ということで、前回の検討会で、〇〇委員が地域を越えた観光とおっしゃっていた。それは、他区と北区を掛けるということではないかと思う。当区の観光資源を他区に紹介する機会を作ったり、他区の観光の目玉を当区でも紹介してあげるなど、北区と他区と結びつけることにより、掛け算の観光というものが成り立つと思う。
- 地域を越えたということについて、ワークショップの中でもネットワーク型の観光や他地域とつないでいくという意見が出たが、周辺地域と一緒に考えていく必要がある。
- ・ 駅からの観光となると、どうしても隣の区との連携になる。行政がらみになるので簡単にはいかないと思うが、ガイド同士で先に連携してしまうのもありだと思っている。
- 勤労者サービスセンターでは、豊島区と北区と荒川区が合併した。そういうことも起こっているので、行政間の連携もうまくいくと思う。

② (北区の観光力を高めるコンセプト) 将来目標像について

- ・ 骨子(案)について、よくできているが少し地味な感じがする。北区の暮らしを旅するというコンセプトはきれいにまとまっているが、一般の人が見たら、なぜ暮らしを見せるのか、という疑問が出ると思う。例えば、富岡製糸場もかなり地味だが、物語でつないで売り出した。北区も小さな物語がたくさん転がっているので、大きな物語につなげていく必要があると思う。

- ▶ 北区の暮らしを旅するというキーワードは、今年2月のシンポジウムのときに出てきた言葉だったと思う。また、ワークショップでも、日常の暮らしに対する誇りを感じる意見がたくさんあった。
- ・ 暮らしを旅するというのは、夕やけだんだんの肉屋さんのコロッケを食べながら歩く、というイメージかなと捉えた。
- ▶ それもあると思うが、他にもいろいろな捉え方ができると思う。目標像のようなものは、人それぞれの想いによって如何様にも捉えられるように、かちっとしすぎない方が良い。来るお客さんに合わせようとする必要はないと思う。北区時間のような、北区スタイルを素直に売り出せばいい。ただ、みなさんがおっしゃっているように、伝わるような編集が必要である。

③ (北区観光の5つの基本戦略) 基本戦略Ⅱ・北区観光の求心力のあるイメージについて

- ・ まわりの人に北区に何が欲しいかと聞くと、デパート、ファッション関係の買い物場所が欲しいという答えがあった。このままでは、地元の若い子がお金を落とさない。まず、区民が求めているものを提供することも大切だと思うし、求めているものは、観光客も外国人も同様だと思う。今、王子のまちはベッドタウンのイメージが強いが、以前のように、エプロンを外して、普段着からおしゃれ着に着替えて出掛けるまちにしていかなければならない。
- ▶ デパートをつくるという話は観光振興プランの中では難しいが、イメージを大切にするという話はとても重要だと思う。

④ (北区観光の5つの基本戦略) 基本戦略Ⅲ・北区観光の魅力を発信するについて

- ・ あるもので進めていく観光とつくっていく観光というものがあると思う。北区の資源で、素晴らしいのに認知度が低いものについては、どう発信すれば認知してもらえるかを考えなければいけない。発信していく、つくっていく、現在あるものを高めていく、の3つ程度で進めていくといいと思う。
- ・ 先日、福島県の郡山に行ってきたが、郡山自体には観光資源がなく、模索をしていると聞いた。今まで行ったことで一番良かったこととして、B級グルメのコンテストを開催したことは、全国から郡山の人口を超える人が集まって良かったと聞いた。北区でも何かそういうイベントができれば、それも一つの方法であると思う。
- ▶ 既にあるものの魅力の編集については、たくさんアイデアが出ているが、方法として、資源からイメージをつくる方法とイメージから資源を加工する方法と二通りがあると思う。また、食のイベントについては、食に限らず集客力のあるイベントを開催してはどうかという意見だと捉えた。食のイベントでいうと、品川のつまみ食いウォークなどを参考に、駅から商店街ということを各駅で行っても面白いかもしれない。

⑤ (北区観光の5つの基本戦略) 基本戦略Ⅴ・安心・安全・ユニバーサルな観光について

- ・ 身体の不自由な方も一緒に観光できるような仕組みがあると、優しい観光になると思う。ユニバーサルデザインということも言われているが、駅の段差を減らすことや安全な坂道

を増やすことなども重要だと思う。北区は観光するには坂道が多いので、手すりなどを整備するなど、安心・安全で観光に優しいまちだということをアピールできればよいと思う。

- ▶ 車椅子関係はものすごく大事である。国でもユニバーサルツーリズムの取り組みを行っていたが、日本はまだ基盤が整っておらず、バリアがあるということ意識するために、バリアフリーという言葉を使った方がよいのではという議論がずっとされてきた。ユニバーサル、安心・安全、といった話は、公共施設などのハードの対応から、ガイドなどのソフトの対応までであると思うが、4章の基本戦略5の箇所ですべて具体的に書いていけばよいと思う。
- ・ 北区ボランティアガイドでは、視覚障がい者にガイドを行ったことがある。車椅子の場合は、坂よりも階段が悩ましい。耳の不自由な方には手話が必要になるので、対応が難しい。これらの対応はこれから考えていかなければと思う。

⑥（北区観光を先導するプロジェクト）観光国際化プロジェクトについて

- ・ 北区を知ってもらうために、北区に宿泊してもらいたいと思うが、北区は宿泊施設が少ない。他府県から来る人に聞くと、宿をとるのに苦労すると聞く。本日の読売新聞の朝刊に、品川区は、ビジネスホテルを外国人向けの宿に改修して、外国人観光の窓口にしている、という記事が載っていた。ゆっくり日数をかけて北区を観光してもらうために、宿泊施設も考慮に入れて検討してもらいたい。
- ▶ 品川の事例は、品川宿の中にある品川ゲストハウスのことだと思う。ビジネスホテルのままではお客さんが来ないということで、畳だけ入れて1泊3000円程度のゲストハウスとして提供したら、外国人に人気になった。外国人は、インターネットでの発信力がすごいので、それで拠点ができるが、ゲストハウスのようなかたちは、北区に合っているかもしれない。ディープな宿屋などは話題になると思う。宿泊滞在という観点を入れておくのも大事だと思う。
- ・ 外国人を切り口に考えた場合、現在はとてももったいないことをしていると思う。滝野川にリセ・フランコ・ジャポネ・ド・東京（東京国際フランス学園）ができたが、フランス人は、子どもの学校を優先して住居を構えると聞く。だから、彼らが好んで行くようなレストランやカフェを作ればよいと思う。また、ナショナル・トレーニング・センターを利用する外国人についても、板橋区は区長が熱心に誘致しているが、北区は何もしていない。具体的なニーズが既に発生しているのに、それを取り逃がしている。他の区にはない潜在力をもっているのに、既にニーズを持つ人に対して、プロジェクトを検討していくべきである。
- ▶ あまり総花的なプランになっても良くないので、積極的な取り組みを示したプロジェクトも検討していく必要があると思う。
- ▶ プランはいろんな方の意見を拾える方がよいと思うが、プロジェクトとしては、インフルエンサーを使って焦点を絞って行っていく方がよいと思う。
- ・ 確かに、フランス学園の前は風景が違う。既存の商店街にフランス人が出入りすることによって商店街自体も変わると思う。大田区には昔、ドイツ学園があり、ジャーマン通りという名前が今でも残っているので、地域への影響は大きいと思う。フランス学園がある場所は、石神井川が流れているので、目黒川のような良い環境になればよいと思う。

- ・ 外国人誘致について、北区にはまず英語の案内マップがないが、都庁の観光コーナーを見ると、著名な区は英韓中の3ヶ国語のマップを揃えている。外国人はインターネットで調べて、お互いに発信し合っており、良く情報を知っているので、そういうことに対するきめ細かい情報発信が必要である。

⑦（北区観光を先導するプロジェクト）北区観光サポート体制づくりプロジェクトについて

- ・ 観光のプロジェクトでは、ニーズを持ったエンドユーザーを特定して活用することも有効だと思う。鯖江市では、鯖江市役所 JK 課のようなこともやっているが、北区の取り組みにおいても、北区在住、北区の学校に通っている若者をプロデュースサイドで活用することが必要であると思う。
- エンドユーザーに伝わらないと意味がない。観光は、観光の部署だけがやるのではなく、他の部署や区民と連携したプロジェクトが必要である。
- ・ 最近、高校生のビジネス女子というのもある。ビジネスにしていくのも一つの方法だと思う。
- そういう方法もあると思う。北区観光をバックアップするようなものとして、ワークショップ参加者にサポーターになってもらったり、女子力を活用したりするのもありだと思う。
- ・ ケーブルテレビでも、どんなに高品質でレベルの高い番組よりも、参加型の番組の方が視聴率が高い。
- プロジェクトとして、区民がつくる住民参加型の白紙のプロジェクトがあってもよいと思う。

(3) 総括

- ・ 人が面白そうだと思って集まってくるには、物語が必要だという意見がたくさん出た。本日、事務局が用意した資料は、キーワードが並べられているだけなので、次回までにキーワードを膨らませたものをお願いしたい。プランを見た人が、わくわくするようなものをこれから作っていかねばならないと感じた。
- ・ 観光振興プランに似たものに、行動計画を示したアクションプランというものがあるが、今回北区が作るのは、観光振興プランである。観光振興プランは、観光の総合計画のようなものである。どうしても総花的になるが、それではもったいないということで示しているのが第5章の先導プロジェクトの部分である。第1章として、背景と目的、位置づけなどご理解いただけたと思う。第2章は、北区観光の特徴と進め方として、段階を踏んで進めていくことを示したが、みなさんの意見を踏まえて加えたいのが、定住につながる、ということである。観光の進め方のステップ3の部分には、将来の姿として定住促進まで加えるのが北区ならではの姿だと思うので、事務局でご検討いただきたい。また、第3章のコンセプトそのものは、本日の議論を踏まえ、仮おきとさせていただきたい。第4章は、ユニバーサルや国際観光について、具体的な意見をいただいているので、事務局でご議論いただいて、次回以降これを膨らませるかたちで話し合えればと思う。また、5つの基本戦略について、大きな構成としてこのようなフレームで了解いただいたということではよいか。

➤ (一同了承)

- ・ 基本戦略の中身の具体的なプランについては、次回お出しして、ご議論いただければと思う。また、先導プロジェクト、もしくは、リーディングプロジェクトとしては、とりあえず例示的な段階だが、なぜこれが必要かということについて、整理が必要である。次回までに、極力文章化してお出しするとともに、第4章についてはもう少しブレイクダウンした形でお示しし、みなさんにご議論いただければと思う。

7. その他

- ・ 事務局より、次回第3回検討会の案内、閉会。

以上